

【特別支援学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立大和特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立活動」を時間における指導と位置付けて2年目となり、教職員の自立活動に対する意識の高まりや試行錯誤しながらの授業づくりについて実績を積み重ねることができている。今後も、これまでに蓄積された教材・教具を活用しながら、自立活動と各教科とのつながりを意識した学習活動の充実を図っていく。 ・「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくり」のテーマのもと、本年度は学部内での授業参観期間を設定した。次年度は学部間での授業参観を計画しており、児童生徒の「主体的」「対話的」「深い学び」の目指す姿の共有と授業改善を行いながら、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を図っていく。 ・「思いやりや豊かな心を育む教育活動」では、今後も交流及び共同学習は継続しながら計画、実施していく。寄宿舎では、自治活動やミーティングを通して、子どもたちの主体性を伸ばしながら、他者を思いやる心を育てる指導・支援を行っていく。 ・業務の効率化・平準化を図り、時間外在校時間の縮減に努める。また、年度末まで目標の年次有給休暇の取得や定時退勤日の推進についても、教職員に対して働きかけを行っていく。 ・ICT活用に関して、他校の活用事例を積極的に紹介し、ICT活用を苦手としている教員を中心に研修を行う。また、学校での学習活動の様子やICTを活用しての学習効果等を、保護者向けに情報発信をしていく。

2 学校教育目標	<p>「たくましく自立し、積極的に社会に参加する人間の育成」</p> <p>・子ども一人一人のニーズに応じた最適な対応に努めることにより、子どもが自分の力を発揮しながら自立的・主体的に取り組む姿を実現し、将来の自立的・主体的な地域生活へつなげていく。</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 自立活動と各教科等の指導について整理し、学習活動の充実を図る。 ② 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行いながら、特別支援教育に関する専門性の向上を図る。 ③ 共生社会の実現に向け、他者を思いやる心を育てる教育に取り組む。 ④ 職員の組織力向上と業務改善を推進し、互いの成長を実感できる学校を目指す。 ⑤ ICT(情報通信技術)を活用することによる学習効果を職員間や保護者と共有し、児童生徒に応じた活用を進める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目			(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者	
評価項目	取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○児童生徒一人一人に応じた自立活動と各教科等を関連させた指導の充実	○(保護者成果指標)「子どもの自立活動の目標や活動状況について理解している」と回答した保護者の平均が80%以上 ○(職員成果指標)「自立活動の指導目標、指導内容を明確にして、時間の指導と各教科等との関連を意識した指導を行った」と回答した教職員の平均が80%以上	・保護者懇談会で、個別の指導計画を提示し、活動状況を確実に伝える。 ・自立活動の時間の指導を計画的に実施し、内容の充実を図る。				教務部	
	○職員の特別支援教育に関する専門性の向上	○(保護者成果指標)「学校生活や授業を通して、子どもが生き生きと活動し成長が感じられている」と回答した保護者の平均が80%以上 ○(職員成果指標)「主体的・対話的で深い学びを意識しながら授業づくりを行った」と回答した教職員の平均が80%以上	・日々の授業において、個に応じた指導や支援を行う。 ・個人懇談や授業参観、連絡帳などを通して学習活動や成果について広く理解を図る。 ・授業づくりについての研修会を行い、職員の専門性を高める。 ・月1回研修日を設け、縦割りの研究グループで授業づくりを行う。 ・授業参観期間を設け、学部間で授業を参観・共有する取組を通して、指導の視点を広げ、授業改善を図る。				教育研究部	
	○進路指導とキャリア教育の充実	○(保護者成果指標)児童生徒にとって、「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育が行われている」と回答した保護者の平均が80%以上 ○(職員成果指標)「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育に努めている」と回答した教職員の平均が75.0%以上	・学部別に保護者への進路講話や進路だより、進路パンフレットなどの情報提供のための資料の充実を図る。 ・キャリアパスポートの活用状況を確認し、担当職員でフィードバックする場を設ける。				進路指導部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	(学校) ●(保護者成果指標)「お子様の思いやりや豊かな心を育む教育活動が実施されている」と回答した保護者の平均が80%以上 ●(職員成果指標)「互いに助けあったり協力したりする学習を行った」と回答した教職員の平均が80%以上 (寄宿舎) ●(保護者成果指標)「子どもが、自分や周りの仲間を大切に、思いやりや心や協力する気持ちを育て、楽しく生活できる支援がされている」と回答した保護者の平均が85%以上 ●(職員成果指標)「仲間を大切に、思いやりや心や協力する気持ちを育て、楽しく生活できる支援を行った」と回答した職員の平均が85%以上	(学校) ・特別の教科道徳や特別活動、各教科等の授業で思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。 ・交流及び共同学習や学校行事等で、他者と関わる場面を設定したり、多様な体験活動を実施したりする。 (寄宿舎) ・集団生活を送る中で、自治活動や季節行事・当番活動などを通して、協力する気持ちや思いやりを育てる。 ・自分自身や周りの仲間を大切に、お互いを理解することができるように、ミーティングなどを通してルールやマナーを身に付ける。				学習部 寄宿舎	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●(保護者成果指標)学校は生徒間トラブルについては、保護者へ情報提供や解決に向けた具体的な手立てを示し、迅速な対応を取っていると回答した保護者の平均が80%以上 ●(職員成果指標)人権を大切にすることや言葉かけや授業に取り組んだと回答した教職員平均が80%以上	・生徒間のトラブルについては、すみやかに学年主任、学部主事、生徒指導主事、管理職に報告し、具体的な解決手段や手立てを確実に実行し、保護者に経過観察を伝える。 ・年に2回以上、いじめや人権・向和教育研修を計画し、実施する。				生活指導部	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生は子どものよいところを認めてくれていると思う」と回答した保護者85%以上 ●「将来の夢や目標をもてるように授業を工夫した」と回答した教職員の平均が80%以上	・児童生徒の自己肯定感が高まるように、できていることを伝えたり、仲間同士で認め合ったりする場面を設定する。 ・児童生徒が「自分は人のために役に立っている」「現在の自分に満足している」「自分ではできている」「自分は前向きに挑戦している」と感じることができるよう授業づくりをする。				各学部	
●健康・体づくり	⑤健康を考えて行動できる能力の育成	●「子どもが自分の体を大切にする生活を心がけている」と回答した保護者80%以上 ●「児童生徒が健康に気を付けた生活を心がけるように授業を工夫したり、日常生活の指導を行ったりした」と回答した教職員の平均が75%以上	・性に関する指導、食に関する指導、がん教育等の健康教育に関する授業の充実や日常生活の指導を実践する。 ・外部講師による講演会を実施する。 ・職員へ性に関するQ&Aハンドブックを配布する。 ・保健だよりや給食だよりを通して学校での活動を保護者に伝え、家庭との連携を図る。				保健環境部	
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	●支援部だよりや公開研修会、巡回相談が役に立ったと回答した地域の学校の平均が75%以上 ●支援の工夫や研修会等への参加を通して地域支援に必要な専門性の向上に努めたと回答した教職員の平均が75%以上	・支援部だよりの発行や公開研修会を年に2回実施する。 ・地域の学校の要請に応じて巡回相談を実施する。 ・児童生徒の実態に応じて支援を検討し実践する。 ・校内外の研修会や関連記事等の情報を発信し、専門性の向上を図る。				教育支援部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外在校等時間の削減と年次休暇の取得率の向上	●月の時間外在校時間45時間未満の教職員が90%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、14日(半期7日)以上の年次休暇を取得した職員が75%以上	・各主事や主任が中心となり、随時、業務内容と役割分担の見直しを行う。 ・定時退勤日を設ける。 ・各自が就業時間を意識し、優先順位をつけて業務を行うよう管理職が働きかける。 ・ノー会議週間を設け、事務的作業の効率化を図る。				管理職	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者	
評価項目	重点取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○学校経営方針	○教育目標に即した教育の実践	(学校) ○「大和特別支援学校に入学させてよかった」と回答した保護者が90%以上 (寄宿舎) ○「大和特別支援学校の寄宿舎に入舎させて良かった」と回答した保護者が85%以上	(学校) ・児童生徒及び家族の思いを理解し寄り添い、専門性をもって個に応じた指導・支援を行う。 (寄宿舎) ・子どもや保護者の気持ちを理解し受け止め、安心・安全な生活を送る中で、社会生活のスキルや主体的に活動できる力を身に付け、活動を楽しみに行ける支援を行う。				管理職 寄宿舎	
○ICT活用教育	○ICTを活用した児童生徒一人一人が「分かる、できる」授業づくり	○(保護者成果指標)「ICTを効果的に活用したことで、こどもの分かる、できることが増えた」と回答した保護者の平均が80%以上 ○(職員成果指標)「ICTに関わる研修や資料の回覧等で、ICTを活用した授業作りや生徒支援に生かすことができた」と回答した教職員の平均が80%以上	・ICT機器を効果的に使用できるように、生徒の実態に合わせて、電子黒板や大型モニター等を、活動場所に配置し、学習用端末(タブレット)や学習用パソコンを効果的に活用する。 ・校内の研修で、授業等で効果的にICTを活用できるような実践事例の紹介や生徒の実態に応じて活用できるような事例を紹介する。また、掲示板や回覧等でICT活用に関わる資料を紹介する。				情報教育部	

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	